

2024（令和6）年 IEC活動推進会議（IEC-APC）議長賞受賞者

電気・電子分野の国際標準化機関であるIEC（国際電気標準会議）の活動は、市場のグローバル化に対応してますます重要性が高まっています。IECへの日本の貢献と産業界の意見反映を目的に平成3年に設立されたIEC活動推進会議（IEC-APC）は、日本提案のIEC分野で顕著な貢献をした個人またはグループを毎年表彰しています。

本年は7名を、令和6年6月3日(月)の第34回IEC活動推進会議総会で表彰しました。



（後列・左から：金川氏、川上氏、木下氏、齋藤氏、藤井氏）

（前列・左から：上田氏、朝日JSA理事長、武重経済産業省国際電気標準課課長、岡田IEC-APC議長、堤IEC副会長、田中氏）

※受賞者の所属企業・団体については、活動期間における主な所属先を示します。

議長賞（敬称略・50音順）

上田 和弘 [パナソニック株式会社 くらしアプライアンス社]

2010年から、IEC/TC 61/SC 61BおよびIEC/TC 59/SC 59K国内対応組織の主査として、主に、電子レンジ・オーブンの規格改正に対する日本提案の取りまとめを行うとともに、日本代表として、国際会議に出席され、日本提案/諸外国の改正提案に対する日本意見の採用に貢献した。

金川 信康 [株式会社日立製作所]

幅広い分野における経験と知見を活かして、安全安心の要となる機能安全規格IEC 61508のメンテナンスチームMT 61508に貢献するとともに、AIの機能安全規格ISO/IEC TR 5469をはじめとする日本提案の数々のルール形成活動をIEC/TC 65国内委員会諮問委員及びIEC/TC 65/SC 65E国内委員会幹事として推進している。

川上 和幸 [パナソニックエナジー株式会社]

二次電池分野の国際標準化に国際プロジェクトリーダー及び国内委員長として貢献。IEC/TC 21/SC 21Aだけでなく、二次電池使用機器の安全規格を含むIEC/TC 108やIEC/TC 61、二次電池材料分析法を対象とするISO/TC 113やISO/TC 333にも参画し、幅広い国際標準化に貢献。

木下 順一 [元 国立大学法人 大阪大学 レーザー科学研究所]

同氏は専門であるレーザーディスプレイや液晶バックライトに関し6件の標準化文書(IS)を成立させた。また、幅広い視点からIEC/TC 110(電子ディスプレイ)の標準化活動の領域を広げ、日本の国益に合うよう他国の提案を牽制するように戦略的に活動してきた。

齋藤 章彦 [大同特殊鋼株式会社]

IEC/TC 51/WG 10のコンビーナおよび国内委員会主査として7年にわたり、2件のプロジェクト案件の国際規格化を主導した。また、7回のWG 10国際会議を取り仕切り、全ての会議を成功に導いた。また学会等での啓蒙活動を通して国内でのWG 10の国際標準化活動の周知にも貢献している。

田中 宏和 [公立大学法人 広島市立大学]

IEC/TC 100/TA 18国際議長として当該TA並びにTC 100の標準化活動に対する貢献と、高齢社会に対応したユースケース、システム技術、ウェアラブル関連技術の提案及び国際標準規格開発に顕著な実績が認められる。

藤井 勝巳 [国立研究開発法人 情報通信研究機構]

CISPR 16シリーズの改訂作業において、30MHz以下の放射妨害波測定に関する検討に大きく貢献した。他に、均質アンテナによる2アンテナ法、電流プローブにおける挿入インピーダンスの巡回比較試験の主導及び実施、18GHz~43.5GHzまでの放射妨害波測定に関して積極的な寄与を行った。

以 上